

## 特集にあたって

上野 哲郎

現在、企業をとりまく環境の変化のスピードは速く、その予測は困難になってきています。このような状況下では、企業は経営戦略を策定・実行することがますます重要となってきています。

従来より、企業経営における情報システムの利用方法については、いろいろと提案されてきました。しかし、その方法は、人が行なってきた情報処理作業をコンピュータに置き換えるものか、経営の各階層の意思決定を支援するものいずれかでした。ところが、現在の情報システムには、情報技術の進歩により、このどちらにもあてはまらないものがあります。すなわち、戦略的に利用していこうとする方向性を示すものです。

この代表例が、S I S（戦略的情報システム）と呼ばれるものです。これは、簡単にいうならば、経営戦略を実現する情報システムです。コンピュータ、データベース、そしてネットワークを結びつけて、企業間競争のための新しい武器を提供することになり、経営戦略の幅を従来より広くするようになりました。

もちろん、企業にとってS I Sだけが有効な経営戦略の策定とその実行に大きなインパクトを与えるわけではありません。戦略の策定を支援する情報システム等いろいろあります。

しかし重要なのは、これらの情報システムと戦略と組織が矛盾なく斉合していることです。一部にミスマッチングがあると、全体の有効性は低下してしまいます。

そこで、本特集において、情報システムの戦略的利用を中心に論じていただきました。

まずはじめに、大前義次氏（茨城大学）に「戦略的情報ネットワークの展開」と題して、戦略的情報ネットワークシステムに関して、経営的、社会的、技術的視点から今後の展開を論じていただきました。戦略的情報シ

ステムは、ネットワーク抜きでは戦略的たりえないし、ネットワークのインパクトが多大であると指摘されています。経営へのインパクトとして、単に新たな競争を生むだけでなく、協調（ネットワークの共同構築・利用等）という新しい動きも生じさせるという興味ある点についても指摘されています。最後に、課題として人材の育成の重要性が論じられています。

第2番目は、根本忠明氏（和光大学）に「経営戦略とS I S」と題して、現代を加速度の時代と生活者主導の時代というキーワードでとらえ、その中でS I Sと種々の戦略との結びつきについて論じていただきました。このような時代の情報システムの戦略的課題として、顧客サービスの創造と、時間差優位の獲得という2点があげられ、このためのS I Sの核心は、経営戦略と情報資源との“創造的結合”という部分にあるとしています。さらに、複数事業戦略を支援するS I Sであるほど戦略的価値が高い（情報資源の価値増殖）との観点より、4つのレベルの経営戦略とS I Sとの関係について論じられています。

第3番目は、杉野 隆氏（新日鉄情報通信システム）に「新日本製鉄における戦略的情報ネットワーク」と題して、鉄鋼業のリストラクチャリングに絡んで、どのような情報・通信システムが具体化されているかについて論じていただきました。鉄鋼業においても、以前のように作れば売れる時代は終わり、いかに需要家のニーズを素速く把握し、その情報を生産に生かせるかどうかが重要な課題となっています。そのために構築されつつある高度な販売・流通・生産システムについて述べられています。販売流通情報システム（RAPID）などは、業務連関を価値連鎖として実現し、競争優位を確保しようとする典型的な一例であり、非常に興味深いものです。

これらの論文より、現在話題となっている情報システムが従来のM I Sとどのように異なり、また戦略的利用にはどのような話題があるかが理解できると思います。

うえの てつろう 関東学園大学

〒373 群馬県太田市藤阿久200